

平成24年度学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立深沢中学校(平成25年2月)

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

全学年で367通の回答があった。今回は385通のアンケートを配布したので、回収率は95%である。

生徒の教育活動に対する評価は、全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。「授業の内容はよく理解できる。」の項目で肯定的意見は昨年度とほとんど同じ76%、「学校全体で部活動は充実している。」でもほとんど同じ77%、「毎日の学校生活が楽しい」で、昨年度から8ポイント増の78%となっている。また、進路指導に関わる部分は上級学年になるに従い評価はよくなっている。しかしながら、「将来の生き方や進路について先生と相談する機会は十分ある」では肯定的意見が4ポイント減少し41%、「先生は誰に対しても公平である。」では6ポイント増の56%、「進路に関する情報報を十分提供してくれる。」では7ポイント減の47%と50%を割り込み、依然として低い割合である。今後、さらなる指導や取り組みを工夫改善しなければならない。

II. 保護者のアンケートより

全学年で294通の回答があった。今回は385通のアンケートを配布したので、回収率は76%である。

全体的には、昨年度とほぼ同様の値で、肯定的回答の割合が高く、特に、2.生活指導について、3.学校行事、6.学校運営、7.教職員、8.広報活動・情報提供、11.学校全般については6割～8割の肯定的回答が寄せられている。教育活動に対する評価の、進路指導の「子どもの将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している。」が49%、「本校の教員は親身になって進路の相談にのっている」が50%にとどまっている。学年毎に分析すると、3年はそれぞれ57%と68%であるが、下の学年になるほど肯定的な割合が減少していく。1年生2年生が望むニーズと教員側の指導内容を一致させていくことが課題である

III. 地域の方のアンケートより

学校協議会委員(出張所、消防、町会長、青少年委員)など55名にアンケートを送付し、29名から回答をいただいた。回収率は53%である。

地域からの教育活動に対する評価は、ほとんどの項目について肯定的回答を寄せられている。前年度までの課題であった「分からない」との回答が20%前後以上に上る項目が3項目に減少した。「分からない」の回答が25%～30%の項目が昨年度あったが、今年度はなくなった。「本校のホームページは充実している」では肯定的な回答が68%と低い値である。情報提供に関して今後も改善を行っていくことが課題である。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

「学校の重点目標が明確である」という評価項目では肯定的な評価は、保護者において66%、地域において86%、教職員(「前年度の学校評価を踏まえ、重点目標を具体的かつ明確に設定している」)において100%である。保護者の評価で思わないの割合が昨年度より大幅に減少し0%となった。わからないの割合は昨年度とほぼ同じ22%である。学校の重点目標についてその目的も含め、保護者に周知していく努力を要する。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

・「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目で、保護者の肯定的な割合は58%と昨年度とほぼ同じであり、地域の方の評価は昨年度より6ポイント増の71%となったがまだ十分とは言えない。わからないの割合が保護者は6ポイント増の29%、地域は14ポイント減の15%と大きな割合を示している。地域の人材や施設をどのように活用していくか検討・改善していく同時に、地域と関連する教育活動について保護者・地域に周知していく努力を要する。
・保護者における学校協議会の項目は肯定的評価が61%に対し、わからないという評価が34%と学校協議会の内容等を地域や保護者へ周知していく必要がある。
・PTA活動に対しては、大変良好な評価を得ている。保護者の学校への協力体制が継続的に行われているものといえる。
・学校は地域の活動や行事によく協力しているの項目の肯定的評価は、保護者が昨年度と同じ78%、地域が昨年度とほぼ同じ83%と肯定的評価が高い。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

・概ね良好な評価である。
・進路指導(キャリア教育)における保護者の評価は、肯定的評価結果の割合は昨年度と比べ微増減があるが50%未満の項目があり依然満足できる値とはいえない。
・学習指導においては、生徒の「授業の内容がよく理解できる。」の項目で肯定的評価が76%と昨年度に引き続き数値目標を超える値となった。学習活動は学校の中心的な活動であり、さらに向上させていく努力をお願いする。また、学年毎で見た評価の値では、1～3年生の学年差がほとんどなくなったことは努力の結果であり、今後も維持していくことが課題である。
・教科「日本語」の全方位的評価は、肯定的評価結果が昨年度よりも大きく向上し、指導体制の改善や研修等による成果が現われている。今後も工夫・改善を推進していくことが課題である。
・生活指導においては、全般的に良好な評価である。
・道徳教育においては、教職員の評価が昨年度より10ポイント程度どの項目も向上しているが、年間指導計画等を更に生徒の実態に合わせて計画し、今後も継続して改善を図っていくことが重要である。
・学校行事においては、今年度も高い評価である。事前・事後の活動・指導を含め、学校の継続的な努力を今後もお願いする。
・相談活動においては、昨年同様に評価が高く、生徒・保護者と学校との信頼関係が保たれているといえる。
・部活動においては、教員数・施設面の制約がある中、保護者・生徒の高い評価を得ている。
・先生について、「先生はだれに対しても公平である」は6ポイント微増の56%であるが、教職員のより一層の共通理解を図っていくことを要する。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

・概ね良好な評価である。
・校長のリーダーシップのもと(保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である)、教職員が教育活動に励んでいる様子が、今年度もアンケート結果や学校公開授業等を通して観える。
・安全指導や安全管理は適切に行われている。大規模災害時の学校の基本的な対応について更なる改善を行い保護者へ周知していく必要である。
・地域アンケートにおいても、学校運営への評価はおおむね良好といえる。

V. 教育環境の整備について

・全方位的な点検・評価の教職員の施設・設備に関する肯定的評価が100%の結果であり、保護者アンケート結果も昨年よりも若干肯定的評価が向上している。「本校の安全性は確保されている」の項目の肯定的評価は若干上がっているものの58%にとどまっているが、教職員の評価結果との乖離が見られる。学校の安全性に対する周知を徹底していく努力を要する。
・全般的に保護者への周知の度合いが今年度も高いとはいえない。教育内容(ソフト面)だけではなく、施設・設備等(ハード面)、様々な内容を保護者へ積極的に情報提供し理解を深める努力を要する。

VII. 学校生活全般について

- ・良好な評価である。
- ・生徒アンケート「毎日の学校生活が楽しい」7ポイント増の78%、「深沢中が好きである」13ポイント増の80%、保護者アンケート「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」3ポイント増の87%、独自項目「本校の職員は、子どもたちを大切にしている。」は6ポイント増の88%の結果は昨年度をさらに向上させており、生徒・保護者とともに学校生活の充足度はかなり高いといえる。
- ・昨年度までの本校の課題であった、1・3年生の結果に比べ2年生の肯定的評価結果の数値がかなり低くなることが課題であったが、昨年度改善され、今年度も維持できていることは評価できる。しかしながら、2学年のA(とてもそう思う)の値が1年や3年よりも低い評価結果である点が今後も課題として残っている。

VII. 数値目標について

- ・今年度は3項目とも目標値を上回り達成された。

この水準に到達できたことを評価するとともに、継続して指導体制・方法の整備が望まれる。

①授業の内容はよく理解できると思う生徒の割合を75%以上にする <評価結果 (生徒 1- (1) 76%)> (1点減)

②地域の活動や行事によく協力しているという地域の割合 75%以上を目指す <評価結果 (保護者 9- (2) 83%)> (2点減)

③部活動は充実しているという生徒の割合 75%以上を目指す <評価結果 (生徒 5- (1) 77%)> (1点増)

VIII. 「学び舎」の目標について (今年度より独自項目生徒アンケート実施)

- ・学び舎で設定した数値目標の結果「①の自分にはよいところがあると思いますか。」は発達段階を考慮しても低い値であり、次年度への課題である。

①自分にはよいところがあると思いますか。 <評価結果 55%> (2点増)

②友達と学校で活動することは楽しいですか。 <評価結果 89%> (4点増)

③自分が住んでいる地域は好きですか。 <評価結果 82%> (5点増)

3 全方位的な点検・評価について

I. 全方位的な点検・評価の方法は適切であるか

- ・適切に実施されたといえる。

II. 全方位的な点検・評価の結果の内容は適切であるか

- ・おおむね適切な内容といえる。

・しかしながら、『Ⅲ未来を担う子どもを育てる教育』の半数以上の項目にわからないとする結果がある。本業である自らの教育活動に対して「分からぬ」とすることの原因を調べ、改善していくことを強く望む。

III. 全方位的な点検・評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

- ・報告書並びに説明は、改善方策を含め妥当なものである。

4 学校の課題及び学校への提言

- アンケート集計結果より、全体的には今年度も良い評価結果である。今後も継続努力し、さらなる向上を目指(推進)していくこと。
- 今年度も2年生の肯定的評価の値が1年や3年とほぼ同じくらいに保たれたことは評価できる。2年生の「とても思う」の評価がさらに向上させていくように今後も改善努力を行うこと。
- 地域との連携においては、地域ボランティア活動等今後も協力関係を深め、生徒が地域の一員としての自覚を持って・活躍できるよう取り組み、取り組み状況等を保護者や地域へ積極的に発信していく努力を行うこと。
- 学校協議会の持ち方を改善・再構築し地域との連携をさらに深めていく努力をしていくこと。
- 情報発信に関して、学年便り等の効果は高いが、ホームページに関して地域等への情報発信のツールとして活用できるようにさらなる改善を強力に行っていくこと。
- 学習指導においては、今年度も昨年度とほぼ同様、全般的に良好な評価である。生徒アンケート等を実施・分析を行い、次年度以降もより高い水準を目指す改善努力を行っていくこと。
- 道徳においては改善が見られるが、生徒の実態を的確にとらえ、年間計画を立案し、工夫・改善を推進していくこと。
- 教科「日本語」においては、今後も共通理解をもち、研修等を通して指導の工夫・改善を強力に推し進め更なる充実を図っていくこと。
- 生活指導においては、今年度も改善してきた様子がうかがえる。引き続き今の状態を維持していただきたい。また、一致した指導体制を今後も推進していくこと。
- 学校行事においては今年度も生徒の満足度は高い。引き続き授業(学習)も大切であるが、生徒の主体的な活動を確保し、より良い行事となることを目指すこと。
- 相談活動においては、今後も生徒の心を捉え、早期に対応する体制を進め、常に生徒が安心してすごせるようにしていくこと。
- 進路指導においては、キャリア教育(進路指導)=進学指導でなく、生徒一人一人が将来にわたり職業人として生きていく力を身に付けていく指導であることを、生徒・保護者に様々な機会をとらえて広報・周知していくこと。また、進路の情報提供にあたっては、保護者のニーズと学校の発信内容が乖離している状況を減少させていく努力を行うこと。
- 部活動等においては、今年度も生徒の生き生きとした活発な活動がみられる。今後も3年間を通した生徒活動の充実を行うこと。
- 学校の安全性、安全への配慮等は保たれているといえる。今後も保護者へ様々な機会をとらえて積極的にアピールしていくこと。
- 大規模災害の対応について、今後も保護者や地域に周知し理解をさらに深めていくこと。
- 一人一人の生徒が、学び舎の教育目標にある「自分大好き」と思えるようにするため、自己実現ができる機会を設定・実践し、自己有用感、自己肯定感等を味わう経験を多く持つことができるよう、改善・努力を行っていくこと。

5 総合所見

保護者アンケート・生徒アンケート・地域アンケート及び全方位的な点検・評価の実施、集計、分析とも適正に行われたといえる。

重点目標の数値を今年度も達成したことは学校の努力の成果であるといえる。また、昨年度課題であった、教科「日本語」に関する教職員の評価結果が向上したことは、改善の努力がうかがえる。その他、今年度改善した項目は、学校の不断の努力の成果と言える。否定的な評価結果に對しても目を向け、今後も改善・努力していくことをお願いする。

「本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている」の肯定的評価87%で高く、否定的評価も7%非常に少ない。これはひとえに、校長が強力にリーダーシップを發揮し、教職員が一体となって努力してきた結果であるといえる。今後も校長のリーダーシップのもと教職員が一体となり一人一人の生徒のために最善を尽くしていくことをお願いする。

平成24年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会

委員長	井坂 聰	(事務局)
委 員	伊藤 嘉信	
	菅田 輝代志	
	武田 泰子	
	谷岡 美貴	
	山崎 正己	
	高下 浩淳	
	吉原 宏	
	山本 勉	
	黒葛原 範顕	